

10 年一昔と言いますが、30 年だったら一世代でその間にジェネレーション・ギャップが生じてしまったと思います。

1991 年 10 月熊本支部第 1 回の例会に出席したのは、現在の熊本支部に於いては私ぐらいしか居りません。随分と遠い思い出です。当時私は、熊本市役所本庁の公害対策課に居た。もう公害といった言葉をも死語になり、環境といった言葉に変わって久しい。

当時の収集方針は、日本切手未使用を柱としていた。人事異動で趣味に力を入れられるようになり、中国切手にも関心が出て未使用で収集をしていた。

1998 年、東京の知人との文通を通してエンタィアにも注視するようになった。

熊本支部では、1994 年 8 月から 2000 年 6 月まで会報の編集にあたった。

一旦、熊本支部を退会したが、仕事を辞めて 2013 年再度入会し再び会報の編集に 2015 年から 2020 年 5 月まであたり今日に至っています。ジェネレーション・ギャップは、価値観の多様化が 20 年前も見られて深刻だった。

今日 LINE、フェイスブック等 SNS の発達が郵便離れを加速し郵趣の世界の未来は、悲観的な状況です。将来的には郵便配達という職業はなくなるかもしれないと感じています。

熊本支部の今後も高齢化が進み厳しい状況ですが支部がずっと健在して行けるように願い最後を締め括ります。

右側に会報の第 1 号の表紙を紹介致します。

くまもと



財団法人
日本郵趣協会
熊本支部会報
'91.10

ご挨拶

熊本支部長 林 相之

水原理事長は、『かねがね「郵趣」とは一人で楽しむことの出来る便利なそして高尚な趣味である。かつて「王者の趣味」と言われた「切手収集趣味」も、今や全世界のあらゆる人によって闊々迄普及している。しかし一人では情報収集が出来ない。情報を入手して趣味の向上と、内容の充実を図る為には同好者が必要で、その集りが一つの会を作り、語り合うならば何と楽しいことではなからうか』と言って居られます。

本年 3 月東北の一会員が「郵趣」3 月号の会員小広告欄に「熊本県北部に JPS の支部を」と投稿したことが呼び水となり、これに応じた会員方のご努力の結果、去る 9 月 8 日（日）熊本東郵便局の研修室を借用し、西日本本部長天野安治氏及び熊本東郵便局長（代理）並びに多数のご来賓の臨席をいただき、会員 17 名をもって JPS 熊本支部を結成しました。

その席上、不肖私が初代の支部長に選任されましたが、何分老年加えて身障者でありますので、果たしてその重責を全うすることが出来るかいささか自信がございませんが、水原理事長の意を踏まえて長い郵趣生活の経験を生かし、極力運営に努力する所存でございます。

ここに関係各位に心からお礼を申し上げますとともに、出来たばかりの「熊本支部」に暖かいご支援とご協力をお願いしご挨拶といたします。